

## 【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2022年7月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

### 世界の7億人 電気利用できず

世界銀行や国際エネルギー機関（IEA）、国連などは、世界で電気なしの生活を送る人が2020年時点で全人口の1割近い7億3,300万人に上ったとの試算をまとめ、エネルギー関連報告書で明らかにした。報告書によると、電気を使えない人はサハラ砂漠以南のアフリカだけで5億6,800万人。ほかはインド、パキスタンなどの南アジア、フィリピンやインドネシアなどの東南アジアで多くを占めた。24億人が健康や環境に有害な燃料を煮炊きに使っていることも指摘された。世界で電気を利用できる人の割合を見ると、20年は91%で、10年の83%から大きく改善されている。ただ、18年以降は伸びが鈍化しており、今後はコロナ禍による所得の減少も重なってさらに進展が難しくなると予想される。ロシアのウクライナ侵攻を背景に石油やガス価格がいっそう高騰したことが、さらなる後退につながる可能性がある。世銀は途上国への戦略的な支援策を求めている。

（ニュースダイジェスト 2022年7月5日より）

① 電気の使用をより効率的にするためにはどうすればよいだろうか？

② 再生可能エネルギーを拡大する際の課題にはどんなことが考えられるだろうか？

③ エネルギー価格の高騰と世界的な物価上昇の関係はどうなっているのだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

## 今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール 7 について解説いただきました。

7



### エネルギーをみんなに そしてクリーンに

読者の皆さんは電気がない生活を想像できますか？ スマートフォンやパソコンの充電、机の電気スタンド、もちろん、冷蔵庫、テレビ、エアコン等々、電気がなくなる生活は想像できないのではないのでしょうか。

国連や世界銀行、国際エネルギー機関（IEA）などの国際機関が、世界のエネルギーに関する報告書を発表しています。今回発表された報告書によると、世界では電気がない生活を送っている人が5億6,800万人もいるということがわかりました。もちろん、この数値は以前よりは改善しているものの、改善率が緩くなっていることが指摘されています。また、世界で24億人が有害な燃料を煮炊きに使っており、環境や健康への影響が危惧されていると指摘しています。

この報告書では、もうひとつ重要な指摘がなされています。それは、再生可能エネルギーです。再生可能エネルギーとは、太陽光や風力などの自然エネルギーにバイオマス発電などを加えた発電方法で、二酸化炭素などの温暖化ガスの排出が、石炭や石油などの化石燃料を燃やす火力発電に比べて、かなり低く抑えられます。そのため、地球温暖化対策に有効であるとされています。現在、私たちが使う電力のうち再生可能エネルギーの比率は17.7%となっており、2010年の16.1%からわずくしか伸びていません。しかしながら、世界各国は再生可能エネルギーへの投資を拡大していて、カナダやスウェーデン、デンマークなどは発電量のうち約7割が再生可能エネルギーとなっています。わが国でも、現在2割程度の再生可能エネルギーによる発電を、2030年には4割弱まで拡大する計画が立てられています。

しかしながら、現在、世界的にエネルギー価格が高騰しています。ロシアのウクライナ侵攻により、ロシアからの天然ガス供給量が少なくなったことで、ヨーロッパ各国が大きな影響を受けました。その余波が世界各地に拡大しているのです。わが国では、電気料金の上限価格が決められているものの、大手電力会社10社すべてがその上限価格に達しました（2022年8月時点）。今後もさらに上昇することが予想されています。

電気は世界中のすべての人々にとって必要不可欠です。しかし、温室効果ガスを多く排出する化石燃料を使った発電ではなく、環境にやさしい再生可能エネルギーで電気をつくるようにしなければならないでしょう。その急速な技術開発や普及が求められているのです。